諸決議が採択されるほか，命名規約の改訂もここで確定する．最後はフェアウェルパーティでしめくくられるはずである．

会期中には関連する学会や学会連合の総会や理事会等が開かれ，ワークショップや，会場を別にする関連集会もいくつか計画されている．

命名規約会議は8月23日～27日に同じ会場で開かれ，また，会期前，会期中，会期後に数多くのエクスカーションも計画されている．

参加の手続き　XV IBCについては第2回案内はすでに出されており，この記事が出る頃には第3回（最終）案内も出ている予定である．会議に出席するためには登録をしていただくことになるが，その様式も案内にはさみ込まれている．登録料は4月10日までは正会員4万円，学生会員2万円などで，それ以外は日に応じて少し高くなることになっている．

案内の請求や登録の申し込みは

〒103　東京都中央区日本橋 2－14－9
加商ビル2階
㈱アイシーエス企画
第15回国際植物科学会議係
Fax：03－3273－2445

宛に連絡していただきたい．シンポジウム講演とポスターの要約（申し込み）のしめ切りも4月10日であり，宛先は上記のとおりである．

会場は横浜の桜木町駅（JR，東急東横線，市営地下鉄）から動く歩道と徒歩で約15分，バスの便もある．

関連のイベントなど　学術的なポスター発表のほかに商品展示も行なわれ，科学機器，試薬，書籍などの展示，即売が行なわれる．参加する内外の著名植物科学者の協力を得て，会場で公開講演会が開催され，一般市民向けに植物科学についての紹介も試みられる．また，同伴者向けのプログラムも準備し，純粋に科学的な討議をするのと並行し，日本をよりよく知ってもらう機会も提供する．

近頃では若手を含めて国際会議に参画する機会も増えてきたが，今回のように2,000人近い外国人生物学者が日本に集まるというのは稀な機会である．生物学の第一線で活躍する内外の研究者と意見を交換し，自分でも研究成果を発表できるなど，大変よい機会であるといえる．多くの人達がこの会議に参加されるよう御紹介する．

一般的なお問い合わせは〒112　東京都文京区白山 3－7－1　東京大学理学部附属植物園 XV IBC事務局（岩槻，秋山，または管野（カンノ））Tel 03－3814－0138，Fax 03－3814－0139で伺います．

（岩槻邦男　Kunio IWATSUKI）

新　刊

□志村義雄：**日本のイノデ属**（シダ植物）160pp. 1992. 自家出版. 〒420 静岡市大岩 2-20-11. ¥6,500（送料 ¥310）.

イノデ属 *Polystichum* はオシダ科の一群で，世界に広く分布していて，日本には特に種類が多く，研究も盛んに行なわれている．本書は志村氏多年の成果を基に，あらゆる面からイノデ属シダを解説したものである．種（著者は安定種と呼ぶ）の数33，これに4変種，4品種，10奇形種が加わる．次にイノデ属には雑種がたくさん知られているが，ここには実に53の雑種が挙がっている．これらの種類ごとの説明は，和名・学名・出典，詳細な記載，分布，他種との雑種，産地など関係事項の文献，葉および生態の写真などから成立っていて親切に書かれていてわかりやすい．これが大部分を占め，その前後に，イノデ属の研究史，主な文献，分類の大要，種類を同定するための形質，安定種類を調べる時に目安になる着目点，検索表，種類の一覧表，近似種類間の区別比較，などがあり，推定自然雑種についてはその特色，着目点，一覧表など，次に地理的分布，生態的分布，染色体数と関連事項，各種数の和名の由来，その他が説明されている．イノデ属を研究する者にとって大いに役立つ文献である．　（伊藤　洋）

□東京書籍：**草花の観察「すみれ」**東京書籍ニューCALソフト．1992. ¥24,720（税込）.

スミレの観察図鑑ではなく，中学校理科教育用の植物同定ソフトである．身近に自生する草本植

物約270種を対象としている．最近，学校教育の場にコンピュータが導入されているが，実際にこれを利用して授業を行うための適当なソフトウエアがないため，宝の持ち腐れになったり，単に動く黒板のような使い方が大部分と聞いている．これを打開するために，いろいろな教育用ソフト（CAL）が市販され，あるいは学会で発表されている．植物同定ソフトに関する限り，いずれも図鑑の二又式検索表を基礎にしたものである．二又式検索表はその過程のすべての分岐点の形質を持つ「完全な」標本しか同定できず，実際の役には立たない．にもかかわらずそういうソフトが横行するのは，植物同定の本質を知らないきわめてエンジニア的発想である．要するに結論を知っている者がそれを再確認する手段にしかならない．

通常手にする「不完全な」標本を用いて，植物を知らない者がなんとか名前にたどりつけるような同定ソフトを作るには，まず対象となる植物すべてについて，同定に用いられるすべての形質の有無が，一覧表として用意されている必要がある．この一覧表データベースには原則として空白は許されない．したがってもし「葉につやがある」という形質がどこかで同定の目安となっているならば，ソフトの対象となるすべての種について「つや」の有無を調べておかねばならない．あらゆる本を通覧してもそういうことは書いてないから，作者の経験と標本に基づいて，そういうデータを作るという，おそろしく時間のかかる虚しい努力が必要である．

一方，用いられる述語，たとえば花，の定義を植物学的な厳密さで用いると，かえって同定の進路を誤らせるので，利用者や対象種によって解釈に融通性をもたせる必要がある．また種類によって同じ形質でも変異の大きさが違うから，形質を細かくとり過ぎるとわかりにくくなるので，ここでも定義の厳密さを調整せねばならない．ここらの匙加減は非常に微妙で，緩めすぎても厳しすぎても順調な同定ができない．

「すみれ」の監修者である大川ち津る氏（元・十文字学園女子短期大学）は高校教師であった15年ほど前から，こういう一覧表式データベースの制作を手がけ，パンチカードによる同定からはじまって，自己開発による同定ソフトを実際の理科教育に取り込む努力を重ねて来ており，多くの公開授業や講習会で実践済みである．したがってこのソフトは従来の検索表を元にしたものとは一味も二味も違った有用さをもっている．

本ソフトは5枚のフロッピーディスクから成り，1枚がシステムで，これだけで同定が行える．他の3枚は図鑑，1枚が応用のためのものである．ソフトは使用機種に応じてそれぞれ用意されている．同定に用いる形質は160ほどで，茎，葉，花期，花，果実と大分けした中を細分し，カラーの図解で示される．手にした標本と較べながら該当する形質を選ぶ．選ぶ順序や数は任意であり，途中で訂正もできる．選びおわるとそれらの形質をかね具えた植物名のリストが表示される．その中のどれかを指定すると，その植物の含まれる図鑑フロッピーの番号が示されるので，該当フロッピーを装着して絵を出させ，確認する．ハードディスクがあれば，図鑑の差し替えはしなくてよい．応用ディスクは自分でデータベースに新たな形質を追加したり，対象種をふやしたりするために用いる．

学校用とはいうものの，一般の方にももちろん使えるし，植物観察の勉強にもなる．教科書との対応上，植物名が必要以上に細かいものがあるが，私は学校教育であまり細かい植物名を教えるのは不賛成である．これは教科書の方を考え直してもらうほかはない．本ソフトは自生草本に限られているが，木本についても発展を期待する．木本は花や実の形質を同定形質とする機会が草本より少なく，葉の形質が主体となり勝ちなので，データベース作製には一層むづかしい問題があるだろうが，解決してもらいたい．ついでに，植物名でなく，科の同定を目標としたソフトも必要と思う．

（金井弘夫）

□全国自然科学名詞审定委員会：**植物学名詞** 192 pp. 1991．科学出版社，北京．¥3,350.

わが国の学術用語集植物学編にあたるもので．3,304件の基本用語を14の分野別に華文英文を対置してある．用語の順序は華文でも英文でもなく，関連性の高い用語をまとめてあるようだ．一